

平成 21 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2008

課題番号：19530228

研究課題名（和文） 東アジアにおける貿易・資金連関に関する実証的研究

研究課題名（英文） Empirical Study on Flows of Trades and Funds in East Asia

研究代表者

豊田 利久 (TOYODA TOSHIHISA)

広島修道大学・経済科学部・教授

研究者番号：90030668

研究成果の概要：ASEAN および日・中・韓の3国を念頭に置いた東アジアを対象に、貿易面と資金面（資本移動）の双方の動きでどのように相互依存が進み、その結果としてどのような問題が生じているかを分析した。特に、貿易と資金の収支の不均衡の状態が顕著であり、通貨危機が起こればどのように伝播するか、東アジア共同体に進むためにはASEAN 後発国の構造改革と経済発展が当面の大きな課題であることを示した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：経済事情，東アジア，国際資金循環，アセアン，アジア通貨危機，東アジア共同体，後発途上国，工業化戦略

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 東アジア共同体構想の議論にみられるように、東アジアに関するさまざまな議論がますます活発になっている。その背景には、EU の出現で、世界の3大拠点のひとつとして経済的躍進が目覚ましいアジア諸国にもまとまりが必要だという認識と、アジアでのリーダーシップをどこが取るかという議論が錯綜し、きわめて国際的な政治・外交上のトピックになっている。EU のような共同体になる

ためには、経済面だけではなく、文化面を含めた幅広い共通の基盤がなければ不可能であり、その条件整備には相当の年数が必要である。

(2) 経済面だけに限れば、各国間の取引がますます活発化している。また、APEC 等のさまざまな地域連合や、2 国間または国対地域間の FTA 等のさまざまな貿易や金融の促進措置が展開されている。特に、1990 年代後半のアジア通貨・金融危機でのアジア諸国の経

験から、その再燃を予防する共通の認識と協調の意識が高まり、チェンマイ・イニシアティブによる外貨準備の融通政策という国際協力の枠組みが出来上がった。

(3)このように、東アジアにおける貿易と金融の各国間の連関が高まり、相互依存が進んでいることについては多くの研究が既にある。しかし、貿易面と資金移動の両面を統合的に国際資金循環として分析することはあまり進んでいなかった。

(4)東アジアの経済統合に関して多くの議論がなされつつあるが、貿易面の統合が進んだ後に金融面の統合を考えるのが通説となっている。これについてわれわれは疑問に感じた。

(5)東アジアにおける経済統合の議論をするとき、ASEAN という比較的まとまった連合体を無視できない。また、わが国や中国等との関係からも、このASEANを含めた東アジアを考えることは当然のことである。たとえ経済面に限ったとしても、東アジアの統合を考えるときには、できるだけ各国の同質性(経済発展の段階や経済構造の同質性)の条件が必要である。しかし、特にわが国で活発化している経済統合の専門家による議論では、ASEAN 後発国(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)の現実を無視した議論が多い。

## 2. 研究の目的

上記の背景を十分に共通認識しながら、経済面に限り、しかもできるだけ数量的な実証分析を行うことを企図した。特に、次の3点に目的を絞った。

(1)東アジアにおける貿易面と金融面の連関がどのように相互に関係しながら高まっているかを、国際資金循環分析の手法で調べる。国際資金循環分析の特性上、アメリカを含めた分析を行う。

(2)貿易と金融の連関構造の実証分析を踏まえ、特に国際金融面での協調・統合の現状や可能性を分析する。アジア通貨・金融危機が波及したメカニズムとショック伝達のプロセスを理論と実証によって調べ、その軽減化を目指すための方策や現実に採られている措置の評価を行う。

(3)日中韓の東北アジアの経済協調は重要であるが、課題も多い。ASEAN 抜きでは東アジアにおける経済統合の可能性や課題は考えられないという視点から、ASEANを含めた経済統合の最大の問題は何かを直視する。そのために、ASEAN 後発国を無視した議論の帰結を実証分析で示す。

## 3. 研究の方法

(1)貯蓄・投資バランス、経常収支と貿易フローおよび国際資金フローという3つの側面を国際資金循環分析によって統合的に統計分

析する。

(2)東アジアにおける貿易と金融の連関の実証分析を踏まえ、貿易促進と金融統合のどちらの優先順位が高いかという分析をする。また、通貨危機の波及プロセスやその帰結を理論的・実証的に分析する。

(3)東アジアにおける貿易面と金融面が統合される条件に程遠い後発国として特にラオスを取り上げ、さまざまな通貨統合の形態が同国のマクロ経済に与える効果を計量経済モデルに基づくシミュレーション分析で調べる。

## 4. 研究成果

上記の目的、方法に沿った3つの方向での研究を着実に進め、その成果を広島修道大学研究叢書としての書物に結実させ、『東アジアにおける貿易と金融に関する計量分析』というタイトルで、2009年度中に出版する。これについては、広島修道大学学術交流センターからの出版助成を受けることが決定されている。

成果の概要を具体的に述べれば、次の通りである。

(1)東アジアおよび米国を含む11カ国・地域の相互依存関係を、国際資金循環分析の計量モデルに基づいて分析した。米国の経常赤字、日・中両国の経常黒字が継続するグローバル不均衡の原因と影響を調べた。また、特に、為替レートの変動が東アジア経済に与える影響に関するシミュレーション分析を行い、その波及効果を推計した。その成果は、中国や香港における3度の国際的シンポジウム、カリフォルニア大学(バークレー校)におけるワークショップ等で発表して、国際的な評価を得てきた。

(2)東アジアにおける金融・通貨の不安定性の諸要因を抽出した。特に、市場決定型為替レートの激動と不均等な効率性・収益性が金融・通貨の不安定性の大きな要因であることを示した。利子率を通じた金融市場の統合はかなり進んでいるが、為替レートを通じた金融市場統合の進展は弱い。これらの理論仮説が、通貨危機が生じた場合のショックの波及の経路や強さについて適用され、実証された。

(3)為替レートを通じた市場統合の進まない正当な理由を、ラオスの現実を反映したマクロ計量経済モデルを用いて示した。すなわち、ASEAN 後発国の中でも特に顕著な複数通貨システムが現存するラオス経済においては、さまざまな代替的通貨統合制度を導入した時の、同国の貿易収支悪化を通じた経済発展への負の効果が大きいことが示される。経済統合へ進む前提として、ASEAN 後発国の構造改革と外国援助を通じた一層の経済発展が前提となることが示された。この成果は、国際開発学会等で発表された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

Nan Zhang, "Re-examination of the Theoretical Model for Global-Flow-of-Funds Analysis", *Journal of Economic Sciences*, 12(2), 21-35, 2009, 無

Toshihisa Toyoda and Kyophilavong Phouphet, "Exchange Rate, Trade and Currency Integration in a Developing Country: The Case of Laos", 豊田利久・張南編著『東アジアにおける貿易と金融に関する計量分析』(広島修道大学研究叢書、近刊)、2009. 有

張南「東アジア国際資金循環モデルとシミュレーション分析」、豊田利久・張南編著『東アジアにおける貿易と金融に関する計量分析』(広島修道大学研究叢書、近刊)、2009. 有

Koyphilavong Phouphet and Toshihisa Toyoda, "Impacts of Foreign Capital Inflows on the Lao Economy", 豊田利久・張南編著『東アジアにおける貿易と金融に関する計量分析』(広島修道大学研究叢書、近刊)、2009. 有

Chris Czerkawski, "Currency Peg and Currency Contagion during Asian Crisis", 豊田利久・張南編著『東アジアにおける貿易と金融に関する計量分析』(広島修道大学研究叢書、近刊)、2009. 有

Chris Czerkawski and Osamu Kurihara, "Fiscal Approach to Currency Crisis, Transmission of Shocks and the Speculation Attack Theory", 豊田利久・張南編著『東アジアにおける貿易と金融に関する計量分析』(広島修道大学研究叢書、近刊)、2009. 有

川畑康治「第2世代工業化戦略」、山形辰史編『後発途上国の貧困削減戦略』(アジア経済研究所、近刊)、2009. 有

Chris Czerkawski, "Rationale for Foreign Exchange Reserves Pooling in Asia", Toyoda, T. and T. Inoue, eds., *Quantitative Analysis on Contemporary Economic Issues*, 79-102, 2008. 有

Nan Zhang, "Global-Flow-of-Funds Analysis in a Theoretical Model - What Happened in China's External Flow of Funds -", Toyoda, T. and T. Inoue, eds., *Quantitative Analysis on*

*Contemporary Economic Issues*, 103-120, 2008. 有

Md. Jahanur Rahman and Toshihisa Toyoda, "An Empirical Study on Long-run Neutrality of Money in Japanese Economy", *The Japanese Economy*, 35(3), 87-111, 2008, 有

[学会発表](計5件)

Nan Zhang, "The Structural Problem of External Flow of Funds and Foreign Exchange Reserves in China", China Quantitative Economics Annual Conference 2009, Shengen University (Hong Kong), 2009年3月

豊田利久, "Unfavorable Truth of Currency Integration in East Asia: The Case of Laos", 国際開発学会第18回全国大会、沖縄大学、2008年11月

豊田利久, "Long-run Neutrality of Money in Japanese Economy", 応用経済学会第2回全国大会、中央大学、2008年11月

Nan Zhang, "The Theory and Practice on Monetary and Financial Statistics", 日中経済統計シンポジウム、中央财经大学、2008年11月

Nan Zhang, "An Analysis Model of Global Flow-of-Funds in East Asia", International Statistical Forum 2008, 中国人民大学、2008年6月

[図書](計2件)

豊田利久・張南編著『東アジアにおける貿易と金融に関する計量分析』(広島修道大学研究叢書、近刊)、2009

Toyoda, T. and T. Inoue, eds., *Quantitative Analysis on Contemporary Economic Issues*, Kyushu University Press, 2008, p.177

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]

6. 研究組織

(1)研究代表者

豊田利久 (TOYODA TOSHIHISA)  
広島修道大学・経済科学部・教授  
研究者番号: 90030668

(2)研究分担者

張 南 (ZHANG NAN)

広島修道大学・経済科学部・教授

研究者番号：20279061

チェルカウスキー・クリス

(CZERKAWSKI CHRIS)

広島修道大学・経済科学部・教授

研究者番号：20271596

川畑 康治 (KAWABATA KOJI)

神戸大学・大学院国際協力研究科・准教授

研究者番号：10273806

(3)連携研究者